

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000184		
法人名	医療法人 総心会		
事業所名	グループホーム長岡京(2階)		
所在地	長岡京市開田4丁目20-21		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=koubyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=2673000184-00&ServiceCd=3204&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅浜町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの性格や要望、ADLに合わせた関わりや介助、家事や作業などの生活援助を行っている。職員が共に楽しく、安心出来る時間や空間を作り、不安や混乱が軽減されるよう努めている。キッチンがオープンな造りのため調理中の音や香りを一緒に感じたり、調理しながらの会話や料理が出来上がる様子も見られるため、食事への楽しみ、待ち遠しさが得られる空間である。職員がイライラせずゆとりを持ってケアに携われるよう、職場環境やチームワークの改善、向上に向けて職員の意見や悩み、愚痴などを聞く機会を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後18年を経た「グループホーム長岡京」は、高い専門性に基づく認知症ケアの地域拠点として機能しています。1~3階ユニットの定員総数は27名で、平均介護度3.7という重度化に新型コロナが加わり、以前のように皆で買い物や調理をする事はやや困難ですが、食に対する興味を重視し、調理専門のパート職員を配置し、普段の食事以外にも自由献立や誕生日のケーキ作り、庭で採れたはよと瓜・プチトマトを食卓に載せるなどして、手作り感や食へのこだわりを大切にされています。さらに、手厚い職員配置や有資格者の積極的雇用と育成により行き届いた質の高い介護を提供されています。地域との関係も良好で、近くの薬局とのリモート歌声サロンや薬に関する研修、町内会からも有意な情報を頂くなど地域からの好意的な協力により、コロナ禍にあっても豊かな日常を過ごせています。医療面でも入居前からの主治医の訪問診療を受けておられる方が殆どで、本人の意思を最優先した医療支援や看取りの実践を通して「ひとりひとりのいのちに安心と笑顔を」を理念とする法人の公正な姿勢が窺え、利用者にとってこの上ない安堵と充足感をもたらしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに処遇目標を各階毎に設定し、実践し、振り返りを行っている	「人格を大切に」、「高齢者介護の専門性を活かした援助を」おこない、「事業所としての専門性と機能を地域に還元」することを骨子とした事業所理念を定め、それをもとに「利用者様には笑顔で接する」などの各階の処遇目標や、「その方に合った声かけをみなで探る」などのスローガンを作成し、毎年スタッフ会議で見直し支援に臨んでいる。理念等はスタッフルームの目につきやすい所に掲示して職員に意識づけをし、職員がイライラしていると感じた時は、管理者が笑いながら処遇目標を「ホラッ！」と指さす等の指導がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが薬局が開催している歌声サロンに参加したり、運営推進会議へ町内会長に参加して頂き交流を図っている	町内会に入っているが、回覧板を回すなどはしていない。町内からの必要な情報は町内会の方が郵便受けに入れてくれている。以前は地域行事への参加や保育所等との交流、地域清掃などもおこなっていたが、コロナ禍により中断している。そんな中、近くの薬局や他の薬局の計らいで、リモートの歌声サロンや、薬の研修、服薬支援などを受け、地域との繋がりを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で勉強会を行っているが、地域の人々に向けては活かしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね出来ている	運営推進会議には市の高齢介護課職員と地域包括支援センター職員、地元の薬局、自治会長、家族等が出席し、事業所の運営状況の報告に加えて身体拘束委員会も開催し、議事録を取っている。書面開催の場合は事前に出席予定者にアンケートをとり、意見収集をしている。会議の場で参加者から認知症に関する相談を受ける場合もある。	運営推進会議議事録には、行事や避難訓練、職員研修等の計画・報告などを分かり易く丁寧に記載されています。事故やヒヤリ・ハット事例の簡単な報告や感染症への取り組み、刻々と変わる面会状況等、家族にとって関心のある情報を入れられるととっても事業所の透明度が高まると感じます。ご一考願います。

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密には取っていないが概ね出来ている	以前あった行政主催の会議も中断し、特に際立った活動はしていないが、運営推進会議に市や地域包括支援センター職員が出席し、掘り下げた意見交換が出来ている。市の「おでかけあんしん見守り隊事業」の一員として、訓練に参加している。運営推進会議の事前情報収集や、議事録持参などでも関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要時や会議の時にカンファレンスを行い、身体拘束をしないケアの実践を行っている	2か月に1回運営推進会議で、市や地域包括支援センター職員を含めた身体拘束委員会を開催し、議事録を取っている。モニター・センサー、玄関施錠に関する協議を丁寧に重ねている。指針や拘束時の書式も備えているが、現在拘束事例はない。屋外に出ようとされる利用者には職員が同行し、散歩や庭園散歩で気分転換を図るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で勉強会を行ったり、外部主催の講習会(オンライン)にて学ぶ機会持ち、注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は持っていないが支援はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	概ね出来ている	運営推進会議前の意見聴取のアンケートや、介護計画作成前の意向確認、普段の要件を伝える際に意見も聞き取っている。まん延防止措置等で会えない時は、タブレットで面会が出来るようにしてほしいという家族からの意見があり、タブレットを購入予定である。利用者からの食事やおやつに関する要望等も、法人の管理栄養士や医師と相談して本人の意向に添えるように配慮している。	

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね出来ている	フロアー会議、リーダー会議等を通じて意見を言え、普段からも意見を言いやすい環境がある。ここ数ヶ月法人の管理職も会議に参加して直接職員意見を聞き、入浴用ストレッチャー購入等可能なことは短期間に実現してくれるので、職員もやりがいがあるとヒヤリングで聞き取る。法人として働き方改革に力を入れ、各種休暇が取り易く、残業もない。育児休暇からの復帰者も2名おられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	概ね出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設に比べると研修参加は少ないと思う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状出来ていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	概ね出来ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	概ね出来ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	概ね出来ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築けるよう心掛けている		

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築けるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	概ね出来ている	コロナ禍により面会に制限を設け、最初は玄関のガラス越し面会であったが、新型コロナの動向を見ながら、各フロアの隅にテーブルとパーテーションを設け、家族等と面会出来るようにした。園芸、畑作業、習字、三味線の演奏、歌、塗り絵等それぞれの趣味や、特技を大事にしている。以前針仕事が好きで、繻い物や雑巾を縫ったりされた方も今は難しくなっている。本人の力に合わせた年賀状や、手紙のやりとりの支援もしている。新型コロナの動向に留意しながら馴染みの美容院に行かれる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を見極め支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり無いが必要であれば支援する		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	概ね出来ている	本人の思いや意向を、日々の介護経過やアセスメント表に記載している。日々の気づきや早急に実践する必要がある事は、フロア会議や日々の申し送りで報告・検討し、総括的なことはサービス担当者会議で検討する。甘い物が好きだが医学的に配慮の要る方の意向を汲み、医師と相談し、ノンシュガーの飴を10個までに制限緩和した例がある。意思表示のしにくい重度の方には、喜怒哀楽や苦痛の表情に特に注意し、職員が笑顔で接することで気分が上向きよう努めている。	

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フロア職員全員が把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	概ね出来ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね出来ている	入居時と1か月、3か月後に追加事項を加え介護計画の見直しをおこない、その後は特に変化がなければ6か月ごとに更新している。介護職の支援に特化した計画内容とサービス担当者会議議事録であり、他職種の関わりが薄いものとなっている。介護職員は日々の実践を介護計画に照らし、達成度を○△×◎で評価し、今後計画に取り入れた方がよいと考える事案は☆を付けて記載し次の計画作成に反映させている。	本人には介護職のみならず、健康面を管理する主治医や看護師、法人母体の管理栄養士、通院介助をする家族、服薬管理の薬剤師など多職種の関与があります。その全体像が見えるような介護計画にされると、もっと介護計画としての視野が広がると思われます。ご一考願います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	概ね出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	概ね出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	概ね出来ている	法人の意向で、従来からの主治医が入居後もそのまま訪問診療に関わり、個々に応じた医療支援をしている。他に訪問看護師の定期訪問や主治医と連携した24時間のサポート体制がある。眼科等の他科通院は原則家族に同行して貰うが、急ぎの場合や家族のいない方、家族が高齢などにより正確な医療情報が得られない場合等には、事業所が通院同行する。希望者は訪問歯科や歯科衛生士の口腔衛生指導なども受けておられる。	

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	概ね出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	概ね出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	概ね出来ている	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」や「看取りに関する指針」を掲げ、別紙(看取り介護の流れ)も併せて看取りへの対応を明文化している。今年度は1名を看取り、コロナ禍でも家族と対面できるように配慮したが、家族への人数制限を設けたことで不便をかけた面もある。臨終には要請した訳ではないが多くの非番の職員も集まり、9年以上関わった故人との別れを惜しんだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。すべての職員に実践力を身につける必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が身につけているとは言えない	消防署の立ち合いのもとで年3回、昼・夜想定通報訓練、消火訓練等を行っている。車椅子の方も非常階段前に避難し、寝たきりの方の避難は職員がシミュレーションを行っている。消防署の講評をもとにふり返り、マニュアルの見直しや課題を次回に活かすようにしている。運営推進会議でも実施報告をしている。備蓄は事業所各階の保管庫に主食やおかず、水、紙皿、おしぼり、マスク、手袋、おむつなどを保管し、品目充実のため新たに備蓄倉庫を作る予定である。防災(地震)マニュアルはあるが、訓練は未実施である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね出来ている	フロア会議や勉強会の折に人権やプライバシーの振り返りをおこなっている。呼称は苗字で、声かけは声の大きさや強さに気を付けている。排泄や入浴時の衣類着脱介助は本人のペースに合わせ、トイレや居室扉の開閉などにも気を配っている。職員の利用者への対応が気になった時はリーダーや管理者がそっと声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	概ね出来ている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足ではない時は概ね出来ている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	概ね出来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けが出来る方がおらず、食事は楽しく出来るよう会話しながら介助行っている	新しいシステムキッチンで、業者から届く食材を専属スタッフが調理し、夕食分は下拵えをして夕方の職員に繋いでいる。利用者から献立のリクエストがある場合は法人の管理栄養士に相談して変更し、アレルギーや食形態への対応もしている。利用者はコロナ感染症予防のため今は調理に参加せず、炊飯の匂い、調理の音などを楽しむ。畑で収穫した野菜や芋に季節感を味わい、誕生日や行事食、手作りケーキなどの普段と違うメニューを喜ばれる様子が機関誌「ぐるーぶほーむ長岡京だより」を飾っている。お気に入りのマグカップなどを家から持ってきて使用している方もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や家族と相談しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後に1人1人に合った口腔ケアを行って。拒否のある方には無理強いはしていない。		

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	概ね出来ている	職員は本人の排泄パターンを把握し、様子やタイミングを見て声かけや誘導をしている。1人でもトイレに行けるように、パットの種類やズボンの着脱方法等も細かく検討し、パンツ内汚染を減らし気持ち良く過ごせるようにしている。また、昼間はリハビリパンツで夜間はおむつ、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、本人に合わせて支援しているが、排泄面での際立った改善例はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しながら下剤を使用する前に牛乳を試してみる等の支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴中楽しめるよう支援しているが、曜日や時間帯は希望に合わせられていない	週に3回午前中に入浴できるようにしている。希望で日時を変えたり、同性介助も可能である。リクライニングチェアや重度の方用に新しく購入したストレッチャーを使用して入浴される方もいる。季節の菖蒲湯や柚子湯も楽しんでいる。入浴拒否があった場合は時間を変えたり声かけの職員を変えたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度に活動して頂き昼夜逆転にならないよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て理解しているとは言えないが出来るよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	寝たきりの方には日中ラジオをつけたり、出来る方と計算や百人一首をしたり一緒に廊下を歩いたり支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩へ行くことは時々しているが帰宅願望の強い方が多く本人の希望に添った外出が出来ないこともある	車椅子の方も一緒に天候の良い日に近くの川沿いを散歩し、花見や亀を見たりしている。また、事業所内の庭や畑でゆっくり外気浴や日光浴を楽しんでいる。介護タクシーを利用し、長岡天満宮などに車窓ドライブの紅葉狩りに出かけている。	

京都府 グループホーム長岡京(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布がないと不安になる方には家族と相談し、財布に少し小銭を入れ持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話をかけたり、手紙を書いたり出来る方はいないが、希望時は話せるよう支援している。年賀状には本人の気持ちが伝わるような文章にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて共用スペースには適度な飾りをしたり、掲示板に行事の写真を張ったりして季節感を味わって頂けるよう工夫している	南側に大きな窓がありとても明るい。食堂とリビングの間にゆったりと座れる椅子を配置し寛ぎの場としている。キッチンからの調理の音や匂いを感じたり、職員との会話を楽しんでいる。職員は常に利用者の近くにいるように心がけ、利用者の安心と居心地を考えている。普段から窓を少し開け、たまに大きく開放して換気をおこなう。加湿機能付きの空気清浄機を設置し、清掃は随時、消毒は夜勤時にしている。壁には季節の飾りや行事での利用者の写真、習字などの作品を掲示している。また、桃の花や観葉植物を置き、時には庭で咲いた花も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	真ん中に座りたい方や端に座りたい方各々の性格に合わせ対応し、マイペースに過ごして頂けるよう援助している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室になじみのある物を置いて頂いたり、写真を飾って頂けるよう家族に準備して頂き、一緒に居室に行く際にはそれを見ながら会話するなどおこなっている	入り口横の壁に名前の入ったプレートを掲げ、自室を分かりやすくしている。居室には洗面所、電動ベッド、床頭台、エアコンディショナー、カーテン等が備えつけられている。隣家と間隔は空き、窓から外の景色が眺められる。馴染みの寝具やタンス、ソファ、写真、琴やスケッチブックなどを持ち込まれている。家具等の配置は本人の好みを尊重した上で、職員も動線を考えたアドバイスをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かないようにしてトイレまでの導線を確保し、歩行可能な方には出来るだけ見守りでできるよう援助している		